

平成22年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校5年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	音声言語の領域は、市の平均にほぼ等しく、話の内容を文脈に沿って正しく聞き取る力は、概ね身につけていると考えられる。	話の要点の聞き取り方や聞き取りやすい話し方などの「話す、聞く」能力とともに、話を聞こうとする気持ちなど「話す、聞く」態度を育てるよう指導していく。
説明的文章	説明的文章を読み取る力は、やや下回り、「接続語の補充」は高い正答率であったが、「文脈に即した内容の理解」の正答率は低かった。	説明文の読み取り方をもう一度確かめながら学習を進め、文章全体の筆者の主張を理解できるよう指導をしていく。
文学的文章	場面の様子や場面の移り変わりについて理解することはよくできていたが、登場人物の心情を読み取ったり、登場人物の様子を読み取ったりする問題は正答率が低かった。	登場人物を中心に物語を読み取る練習や、文脈に即して心情の移り変わりを読み取る指導を継続的に行っていくようにする。
漢字	全体的に市全体の正答率にほぼ等しいが、漢字の読みの力は高く、書きの正答率は低い。	漢字の得意な児童と苦手な児童の差が大きくなり、個別の意識付けが必要である。漢字を使う指導の徹底を図り、漢字を使う楽しさに気付かせていきたい。
言語事項	「修飾語」についてはよく理解されていたが、「品詞の識別（動詞）」を問われた問題では正答率がやや低かった。	基礎的な力となる読書量を増やしていくとともに、文の構造に関する理解を深める指導を継続していきたい。
作文	市の平均を上回り、概ね手紙の書き方が分かっていると考えられる。	学習の中で、お世話になった人々に、具体的な場面に即して、手紙を書く経験を積み重ねさせていきたい。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	市の平均を上回り、小数のかけ算、わり算、分数の加法、減法がよく理解されていた。	さらに反復的な学習が進められるようにし、基礎的な力が定着するように指導していきたい。
量と測定	図形の体積を求める問題で、市の正答率を下回った。	体積などの問題が苦手な児童がおり、繰り返し復習させ、定着を図りたい。
図形	「三角形と四角形、合同」については正答率が高く、よく理解されていた。	合同の対応関係などで、ケアレスミスをしていた児童もいたので、もう一度復習し、理解が深まるよう指導を行った。
数量関係	結合法則を使った式の変形については、ほぼ市の平均に近い正答率であった。	法則の原理を説明するとともに、具体的な数値や、面積を求める場面などにあてはめて、法則の便利さへの理解を深めさせていきたい。